

# デジタル人民元の行方

インタビュー

## 民間データ収集とドル支配への抵抗 開発急ぐ中国政府

北京冬季五輪は、通貨をめぐる競争の身砲も鳴らした。中国政府は五輪会場で選手らが、紙幣でも硬貨でもない「デジタル人民元」を使えるようにして金融技術の力をアピールする。第2次大戦後、米国は基軸通貨の米ドルを武器に、国際金融の秩序を支えてきた。この覇権構造は通貨のデジタル化で変わるのか。専門家に聞いた。

中国がデジタル通貨の開発を急ぐ狙いは何ですか。

「中国では、巨大IT企業アリババと Tencent がそれぞれ『アリペイ』と『ウィーチャットペイ』というデジタル決済サービスを提供しています。スマートフォンでも安く簡単に使えるこのサービスが、日常の決済の場で、政府発行の通貨を押しやるように広がる状況が生まれていました」

「この2社は最近まで、自社が蓄積する膨大な決済データを政府と共有することを渋っていました。2社が経済的、政治的に力を強めることに、政府はかなり神経をとがらせています。『デジタル人民元』の開発は、民間企業がデータに独占的にアクセスするのを制限するための手段なのです」

国民のデータを収集する体制の強化手段なのですか。

「デジタル人民元を導入すれば、政府は金融取引に関する膨大なデータを得られます。さまざまな民間決済企業のサービスを取り込むプラットフォームになれば、さらにデータが集まります。中国国民の金融取引についてはプライバシーが完全になくなる、という懸念は確実に強まります」

■ ■

現在の人民元は、国際決済額に占める比率が1%余り。各国政府が保有する外貨準備の比率でも米ドルとは20倍以上の開きがあり、基軸通貨とはほど遠い状況です。グラフ参照。中国はデジタル通貨でドルの覇権に挑戦する意思を持っているのでしょうか。

「デジタル化は民間企業のデータ独占の阻止が主眼で、(ドル覇権に挑む)国際化はあくまで付随的なものでしょう。ただ今後は、デジタル通貨と中国独自の国際銀行間決済システムを組み合わせて、人民元建ての国際取引を増やしていく可能性はあります」

中国に有効な金融制裁をかけられないようにするという狙いがあります。

「ドルでの決済を封じる金融制裁は、ウクライナ情勢をめぐるロシアへの対抗策としても注目されていますね」

「ロシアのように輸出収入に頼る国にとって、依然、ドル中心の国際金融システムから締め出されることの打撃は大きい。米国の脅しだけで、ロシアの膨張への有効な抑止策になっていません。ロシアや中国などは間違いなく、長期的にドル中心の金融に対する依存を減らしたいと考えています」

「デジタル人民元は、金融制裁を迂回する手段にもなり得るのでしょうか」

「そうですね。中国は米国による金融制裁について詳細に研究しています。現在、世界中でドル建ての国際送金業務を担う国際銀行間通信協会(SWIFT)は米国が強い影響力を持っており、(制裁対象国の銀行の排除などを通じ)金融制裁に利用してきました」

「中国がデジタル通貨と独自の送金システムを組み合わせれば、SWIFTを介さず、ロシアなどと中国の銀行同士が取引できるような道を開くことで、ロシアなどを中国とのより緊密な提携に引き寄せられるかもしれない」

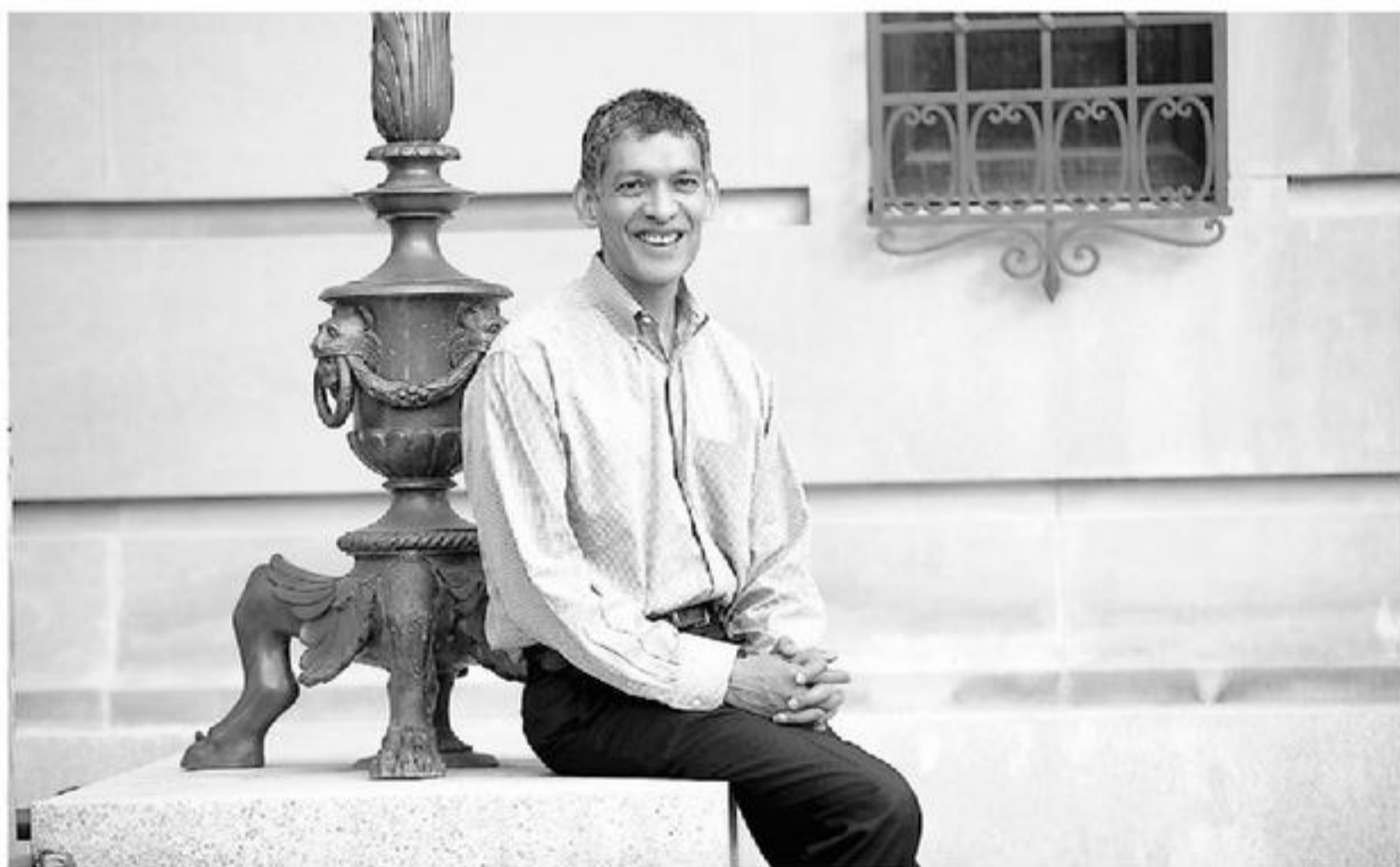
「ドルのような基軸通貨に、人民元がなれるとは思っていません。それは、デジタル人民元になっても変わりません。これから10〜20年の間に人民元の役割は高まっていくでしょうが、国際金融において支配的な地位を得ることは難しいでしょう」

「米ドルがなぜこれまで基軸通貨として覇権を維持できたのかを考えると、強い米国経済です」

### 経済学者

Eswar Prasad さん  
エスワー・プラサド さん

インド出身。国際通貨基金(IMF)の中国部門責任者を経て米コーネル大学教授。昨年、「The Future of Money」(未邦訳)を出版した。



また、米国債をはじめ多様な金融資産の売買が活発に交わされる、高度に発達した金融市場も見逃せません。さらに、法の支配や三権分立といった権力の抑制と均衡のシステムや、独立した中央銀行をはじめとする金融取引を支える制度上のインフラも備えています。こうした枠組みが定着していることによる「信用」が重要ですよ」

「2008年のリーマン・ショックに端を発する世界的な金融危機の震源地は米国でした。にもかかわらず、各国政府や民間投資家は、米国債などのドル資産をこぞって買い、リスク回避を求める資金が米国に流れ込みました。つまり、米国は世界の投資家にとって『安全な避難場所』なのです」

## 国際化の推進と資本への支配力 ジレンマ抱える

中国は「安全な避難場所」になりえないと?

「ユーロや日本円など主要な準備通貨を持つ国は、いずれも法の支配などの制度的なインフラが整っています。人民元はこうしたインフラがないのに、準備通貨に組み入れられている『例外』です」

「中国共産党はいまのところ、自国における統治体制の改革に踏み込む気はないことを明確に打ち出しています。このことを踏まえると、人民元でドルの覇権に真剣に挑もうという意欲があるとは考えにくい」

人民元のさらなる国際化は進めたいけれど、資本取引の規制や不透明な為替政策は性急には見直せない。こんなジレンマを抱えている、ということですか。

「中国が直面している戦いは、自分自身との戦いといえます。人民元が世界で広く使われるようになれば、中国の投資家が国外に投資して資産を多様化することもできるし、外国資本からの投資を呼び込むこともできます。中国もこの利点を自覚しているから資本取引の規制緩和を進め、為替の変動も市場に委ねる方向へ進むと『約束』はしてきました。ただ、国外の投資家は信じ切れない。ルールそのものが恣意的に変えられないとは限らないからです」

「中国政府は、資本への支配力は失いたくないというのが本音です。特に金融市場が混乱する危機の場面では、きつと強い規制をかけようとするでしょう」

「中国共産党はいまのところ、自国における統治体制の改革に踏み込む気はないことを明確に打ち出しています。このことを踏まえると、人民元でドルの覇権に真剣に挑もうという意欲があるとは考えにくい」

「中国共産党はいまのところ、自国における統治体制の改革に踏み込む気はないことを明確に打ち出しています。このことを踏まえると、人民元でドルの覇権に真剣に挑もうという意欲があるとは考えにくい」

「中国共産党はいまのところ、自国における統治体制の改革に踏み込む気はないことを明確に打ち出しています。このことを踏まえると、人民元でドルの覇権に真剣に挑もうという意欲があるとは考えにくい」

「中国共産党はいまのところ、自国における統治体制の改革に踏み込む気はないことを明確に打ち出しています。このことを踏まえると、人民元でドルの覇権に真剣に挑もうという意欲があるとは考えにくい」

国際決済額の比率 SWIFT(ユーロ圏内取引除く、21年11月)から

スイスフラン	1.15	香港ドル	0.8
豪ドル	1.36	スウェーデンクローナ	0.7
中国人民幣元	1.38	その他	4.36
カナダドル	2.2		
日本円	3.18		
英ポンド	4.27		

世界の外貨準備に占めるドルと人民元の比率



「中国共産党はいまのところ、自国における統治体制の改革に踏み込む気はないことを明確に打ち出しています。このことを踏まえると、人民元でドルの覇権に真剣に挑もうという意欲があるとは考えにくい」